

秋冬はくさいの生産（生育）出荷見通しについて
（平成 20 年 11 月 6 日時点）

出荷団体名：JA 全農いばらき

1. 生産（生育）状況について

(1) 生産状況

ア. 作付状況

系統 900ha（前年同）

高齢化・後継者不足により生産者数は減少も大規模生産者が面積を確保する傾向。
10 月上中旬出荷の早い作型は高温障害等の回避により減少。

イ. 作付時期

ゲリラ豪雨等の影響で定植作業は 5～7 日程度遅れ、9 月上旬に集中した。
さらに、9 月中旬の降雨続きで定植作業が約 5 日程度空き、その後に集中。
この間のキャベツの被害ほ場が散見され、白菜を植え直すほ場を確認した。

(2) 生育状況

ア. 天候の推移

8 月中旬以降、30 日以上曇雨天があり、水分過多、日照不足の影響が懸念される。
10 月に入り気温低下し病害等は抑えられた。

イ. 生育状況

定植後の生育は概ね順調も、土中水分過多により根張りがやや弱い。
早生種は軟弱徒長気味で、ほ場で倒れる株も散見された。
ほ場によっては、生育遅れ気味でも結球は早まり、重量の乗らない仕上がりが目立った。
中生種は概ね順調と思われるが、今後の天候次第で生育障害、病害など不安定要素は多い。

2. 出荷見通し

(1) 出荷時期

開始 10 月下旬～（前年、平年並み）

ピーク 11 月～1 月（前年、平年並み）

(2) 出荷量

10 月は前年比 122%。

① 当面～12 月中旬期

作柄不安定から前年比 10%程度減、計画をやや下回る数量が見込まれる。

② 年末～年明け

12 月の気象条件で作柄は大きく影響されるが、品種特徴から 4 玉中心の出荷。
需要状況により出荷数量は変動する。

③ 1 月～2 月

作付けは前年同、平年並みだが、年内の需要状況により残量は変動する。

④ 3 月以降

3 月向けの作付けは少なく残量次第となる。

3. 販売対策

- ・ 卸売会社と協力し、予約相対取引等、条件付販売を拡大するとともに、生産コスト上昇分を卸売価格に反映するために、流通関係者への協力要請を実施する。
- ・ 鍋で暖まろう！キャンペーンとの連動性を高めた消費拡大活動を展開する。
- ・ 食品メーカーコラボ企画により、指定する量販店舗にて秋冬野菜の販促活動を展開する。
- ・ 安値が続く場合は、出荷調整対策を講じるとともに、行政の協力を得ながら県内生産者に向けた出荷調整の周知活動を実施する。